

2023 年度 ベトナム研修 報告書

医療科学部 放射線技術学科 3 回生 氏名 溝渕 果歩

〈 研修概要 〉

2024 年 2 月 25 日から 3 月 7 日の 12 日間に参加したベトナム研修について報告します。本研修ではチョーライ病院とタンアン一般病院での臨床実習、フエ医科薬科大学との交流プログラムを行いました。

〈 研修参加の目的 〉

私はこれまでに海外研修に何度か参加する機会に恵まれ、様々な価値観や考え方に触れることに喜びを感じていました。本研修を通して、日本とベトナムの文化・医療の違いを知り、視野を広げ自分自身の成長に繋がりたいと思い、本研修に参加しました。

〈 研修で学んだこと 〉

病院実習

2 月 26 日から 3 月 1 日の 5 日間はホーチミン市の国立チョーライ病院で研修を受け、主に MRI 検査と CT 検査について学びました。これらの検査の画像処理を経験しましたが、私の知識では 1 人で画像処理できませんでした。さらに、病変の視認性を向上させる適切なコントラストを選択できませんでした。これらの経験から自分の知識不足を痛感し、復習の必要性を強く感じました。また、実習期間中は診療放射線技師を志すホーチミン医科薬科大学の学生と共に学ぶ機会にも恵まれました。彼らから日本の医療について多くの質問を受け、彼らの知識に対する貪欲さに驚きました。昨夏にフエ医科薬科大学の学生が本学を訪れて交流する機会がありましたが、私は日本の医療を紹介することしか頭になく、ベトナムの医療について質問しようという考えはありませんでした。このような学びに対する姿勢の違いは知識欲の差に起因していると思いました。本研修でベトナムの医療を目の当たりにし、日本の医療と異なる点を発見すること、その理由を知ることによって面白さを感じ、異国の医療への関心が強くなりました。異国での病院研修は研修参加の大きな目的ではなかったため、本研修に参加して良かったと思いました。さらに、我々からの質問に対して常に正確で精緻な回答が返ってき、彼らとの圧倒的な知識量の差を感じ、勉学への向上心が掻き立てられました。今後は講義で得た知識から生まれた疑問や興味を調べる習慣を付け、知識の深耕を図りたいと思いました。また、ベトナムでは座学では得られない臨床経験を積むための実地訓練を重視しており、日本よりも遥かに長い臨床実習期間（ベトナム：2 年半、日本：2.5 ヶ月）が設けられていました。臨床実習にて患者の本人確認をさせていただき、高齢の方や神



国立チョーライ病院での
注射の練習

経質な方など個々に合わせた患者接遇の必要性を学び、経験によって理解が深まることを体感しました。4年生の臨床実習も積極的に質問し意欲的に取り組みたいと思います。

2月28日の午後はホーチミン市の私立病院であるタンアン一般病院で一般撮影の研修を受けました。研修中は解剖学や撮影方法について問われました。解剖学に関しては、出題された身体部位の英語が分からずに回答できないことが多く、英語力を磨きたいと思いました。撮影方法に関しては講義で学んだ内容すらも答えられず知識不足を痛感し、講義の重みを実感しました。また、タンアン一般病院の診療放射線技師の方々は多忙な業務中にも関わらず、丁寧に教えてくださいました。専門的な知識に加えて英語力も長けており、彼らのような知徳に優れた人になりたいと思いました。

学生間の交流プログラム

3月3日から6日の4日間はフエ市のフエ医科薬科大学の学生と交流しました。フエ医科薬科大学の学生は非常に親切であり、彼らの温かいおもてなしに感動しました。彼らの優しさに触れ、他人を尊重して気配りできる人間になりたいと思いました。さらに、チョーライ病院やタンアン一般病院の診療放射線技師やホーチミン医科薬科大学の学生と同様に、フエ医科薬科大学の学生も知識欲が強く、高い向上心を持っていました。彼らは学ぶことは遊ぶことと同じくらい楽しいと言っていました。私は国家試験に合格さえできれば良いとしか考えておらず、学ぶ楽しさを忘れていたことに気付きました。彼らの考えに触れ、国家試験合格が目標ではなく、診療放射線技師として多くの患者を救えるような知識と技術を持つ医療人になりたいと思いました。



フエ医科薬科大学での講義



よっちょれの披露

日本文化の紹介として「よっちょれ」を200人以上のフエ医科薬科大学の学生の前で披露し、拍手喝采を浴びたことは未だに鮮明に覚えています。私は、ベトナムでお世話になる方々に喜んでいただくことを目標に練習を重ねました。本番後のやり遂げた気持ちよさは忘れられません。目標達成に向けた練習に励むほど、成し遂げたときの達成感が大きくなると思いました。心を豊かにするためにも、何事も一生懸命取り組む人でありたいと思います。また、この機会に初めて「よっちょれ」を知ったことやプレゼンテーションの作成にて日本の文化や医療制度について多くを学んだことで、日本文化を知る機会にもなり、自国の良さを再認識できました。特に、ベトナムでは、車間距離はないに等しく、短時間で何度も車線変更する危険な運転や、歩行者優先の考えはなく、道路の横断には常に危険が伴うなど、日本の交通事情の安全性を再認識しました。慣れ親しんだコミュニティーから離れて見慣れた環境を見直すことは、「魚の目に水見えず人の目に空見えず」を実感させてくれました。

〈 まとめ 〉

本研修を通して自分とは異なる様々な価値観や考え方に触れ、当たり前だと思っていた周囲の環境や生活、そして自分自身を客観視できました。私は、本研修でベトナムの学生と触れ合い、努力を避け失敗しないように楽な道に逃げていた自分を正当化していることに気がつきました。原因は、中学生から勉強に費やしチャレンジした大学入試共通テストでマークミスにより、これまでの努力が無になった経験でした。合格しなければ努力した時間が無駄になるかもしれない恐怖がプレッシャーになりマークミスに繋がったと思います。その辛い経験から、これまで大きな挑戦をすることができませんでした。しかし、高い志を持ち目標に直向きに努力するベトナムの学生と出会い、純粹に格好いいと思い、また何かに挑戦したいと心震わされました。失敗を恐れるのではなく、何事にも一生懸命に取り組みたいと考え直すことができました。これからの人生では患者の病を見つけるための十分な知識と技術を持った診療放射線技師、気遣いを忘れず自分自身が格好いいと思える人間を目指して日々精進したいと思いました。

〈 謝辞 〉

海外研修という貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。本研修での経験を今後の人生に活かし、日々成長したいと思います。お世話になったチョーライ病院、タンアン一般病院、フエ医科大学の関係者の方々、引率して下さった松尾悟先生、水田正芳先生、霜村康平先生、翔太翔太先生、様々なサポートをして下さった事務の方々、そして12日間を共に過ごした友人たちに深く感謝いたします。



学生交流



パーティーの様子